

女性の骨盤臓器脱

神戸掖済会病院 産婦人科部長

かとう たかし
加藤 俊

女性の寿命が延びるとともに、中高年以降の“生活の質”がますます重要となりつつあります。仕事や子育てを終えて得られた自由な時間を健康で行動的に過ごしたい、と誰もが望んでいます。そうした中高年女性を悩ませるものに、泌尿生殖器系のトラブルがあり、多くの場合に原因となるのが「骨盤臓器脱」です。骨盤臓器脱とは、骨盤の底をハンモック状に支えている筋肉や組織が、色々な要因で緩くなって支えきれなくなり、骨盤内の臓器が産道（腔管）内に垂れ下がり脱出してくるものをいいます。脱出する臓器の種類によって膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤と区分されますが、いずれかが単独で生ずることは少なく、病因を同じくする総称である骨盤臓器脱として扱われるようになりました。男性に多い^{そけい}鼠径ヘルニアのような、女性特有の一種のヘルニアと考えられます。

原因は、加齢や女性ホルモンの欠乏、おなかの内圧上昇などです。具体的には、長時間の立ち仕事や肉体労働、肥満、いきむことが多い便秘が危険因子です。出産回数の多い人や出産が軽くてすむ骨盤の広い人などにも多くみられます。

年齢は60～70歳に最も多く、早い人では出産直後から見られます。80歳までに10人に1人がかかるとされ、軽いものを含めると出産経験者の約半数が症状を持つとも言われています。多くの方が老化によるものと考えてあきらめたり、恥ずかしさから受診をためらって我慢していると考えられることから、実際の患者数はかなり多いと考えられます。

症状は、脱出する臓器によって様々です。膀胱瘤では尿が近くなる、排尿後の残尿感、尿もれなどがあり、進行すると逆に尿が出にくくなることもあります。子宮脱ではおりものや出血、おなかの臓器が引っ張られるような不快感などがあり、直腸瘤では便意を頻回に生じたり、残便感等の症

状があります。その他に「膣口から柔らかい風船のようなふくらみかのぞく」「硬いものが触れる」などの訴えもあります。放置しても命に関わることはありませんが、症状が生活に支障を及ぼす場合は、治療が必要となります。

治療は、ペッサリー療法または手術療法が行われます。ペッサリーはリング状の器具で、産道内に留置することにより臓器の脱出を防止するものです。最近では、自分で出し入れできる柔らかいタイプのもので使いやすくなりました。手術を好まない人、他の病気や高齢のために手術ができない場合に適しています。しかし、おりもの・出血・違和感・不快感などの副作用や効果が不十分な場合もあるので、全ての人に適した治療ではありません。

最も効果の高いのは、手術療法です。これまでは、緩んだ部分を切り取り、残った部分を縫い縮める膣壁形成手術が長年行われてきました。しかし、再発率が 30-50%と高く、膣管が狭くなるなど機能面での問題もありました。近年フランスで開発された合成素材（ポリプロピレン）のソフトメッシュを用いた骨盤底補強術は、従来法に変わる術式として注目されています。弱くなり、たるんだ部分を使って補強するのではなく、耐久性が高い非吸収性の糸で編んだ網を膣壁内に埋め込むという新しい発想の手術で、再発が少なく性機能の改善も期待されます。こうした新しい手術は、体への負担も少なく、将来的には標準的な治療法となるかも知れませんが、現在のところ行っている病院はまだ限られています。

尿もれは、膀胱瘤の症状でもありますが、逆に、手術によって膀胱瘤を治療すると尿もれが現れることがあります。膀胱が下がって尿が出にくくなることで、元々ある尿もれが隠されていることがあるのです。咳やくしゃみなど、おなかの圧力により尿道が下垂するために起きる腹圧性尿失禁と呼ばれる状態です。これは、尿道が落ち込まないようにポリプロピレンのテープで支える手術（尿道スリングテープ）を加えることにより治療できます。

治療が必要ではない軽症の人や骨盤臓器脱の危険因子のある人は、進行の予防も大切です。日常生活では、長時間の立ち仕事や、しゃがむ姿勢を

避ける、おなかを強く締める服装やコルセットを控える、便秘の改善などです。出産後に推奨されている、骨盤底筋を鍛える体操を長期間行えば、一定の効果があるとされています。

骨盤臓器脱は、産婦人科と泌尿器科両方に関連した疾患であり、治療にかかわる診療科が病院によって異なります。合成素材メッシュを用いた手術や尿道スリングテープ手術を行っていない施設もありますので、骨盤底再建や尿失禁を専門にしている病院での受診をお勧めします。事前に電話やホームページで診療内容を確認されるとよいでしょう。

神戸掖済会病院

〒655-0004

兵庫県神戸市垂水区学が丘1-21-1

TEL 078(781)7811

FAX 078(781)1511

<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp/>